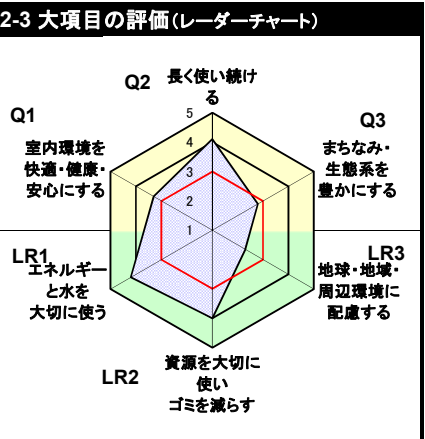
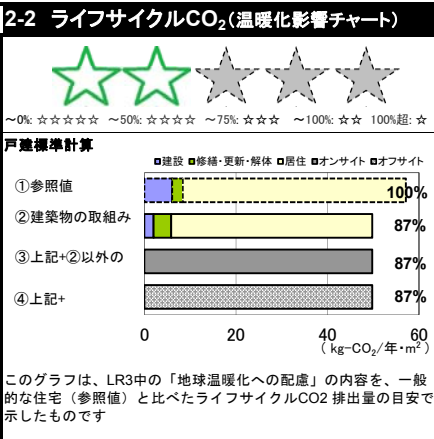
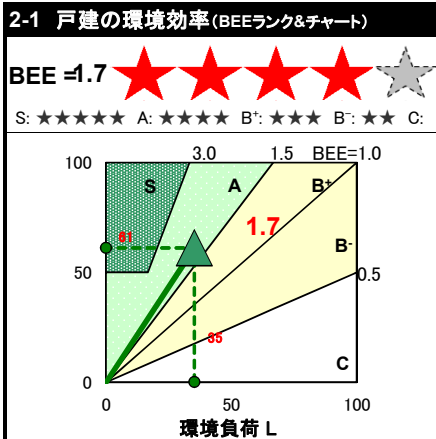
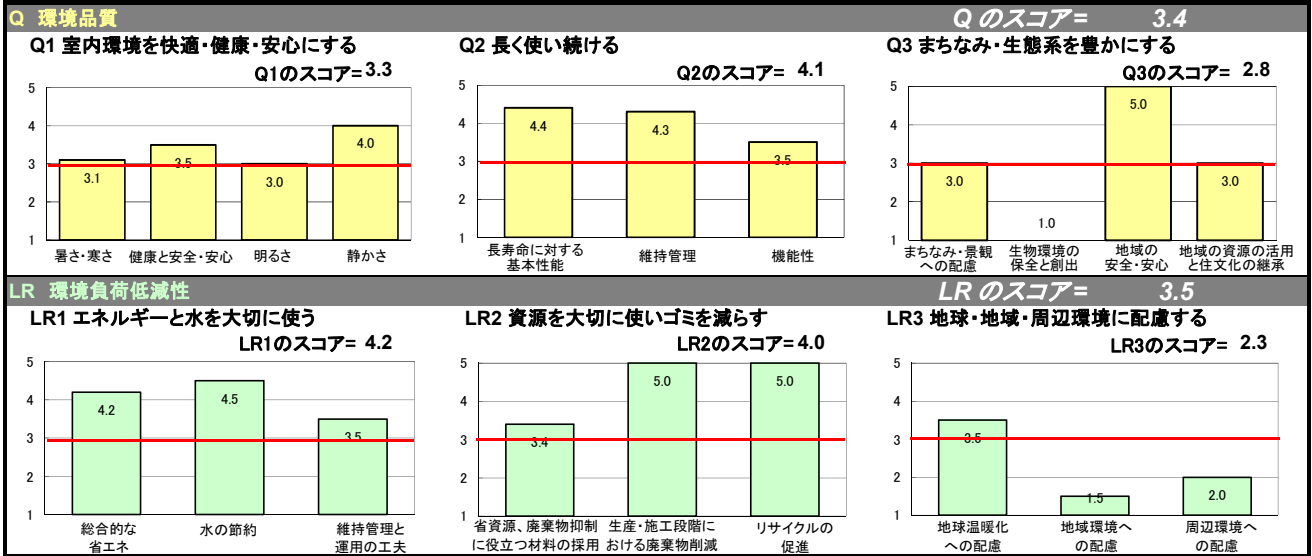




1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	諏訪坂018③ No.3	仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 仮 一部確定	外観パース等
竣工年月	2019年6月	竣工			
建設地	神奈川県横浜市鶴見区諏訪坂2305番1の一部	<備考>			
用途地域	第1種低層住居専用地域				
省エネルギー-地域区分	6地域				
構造・構法	木造/在来工法	確定			
階数	地上2階建て				
敷地面積	133.29 m ²	確定	評価の実施日	2019年6月10日	
建築面積	49.28 m ²	確定	作成者	蔭山 さつき	
延床面積	97.21 m ²	確定	確認日	2019年6月17日	
世帯人数	4	仮	確認者	蔭山 さつき	



2-4 中項目の評価 (バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合	その他
耐震等級3、省エネルギー等級4を満たして、環境性能を高めている。また、長期優良住宅の認定も取得し、将来にわたり安心してお住まいいただける住宅としている。	
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 全てのガラス面に遮熱 LOW-Eガラスを採用し、断熱等性能等級4、一次エネルギー消費量等級5を取得することによって、快適に過ごせるよう、配慮している。また、玄関2ロック、窓サッシ補助錠付きとすることで、安心して過ごせるよう、配慮している。	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 建物の高さ、形状、色彩を統一し、街並みの調和を図っている。
LR1 エネルギーと水を大切に使う 節湯型機器を台所、浴室に、食器洗浄機を台所に設置し、トイレの便器に節水型便器を使用することで、省エネに配慮している。	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する
Q2 長く使い続ける 劣化等級3を満たすよう、耐用年数の長い建材を選定している。また、維持管理のしやすいように外配管設計とし、定期的メンテナンスを行えるよう、配慮している。	
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす 外装、内装、外構の一部にリユース材を使用している。また、パワービルド工法を採用することで、プレカット時のロスを軽減している。	



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

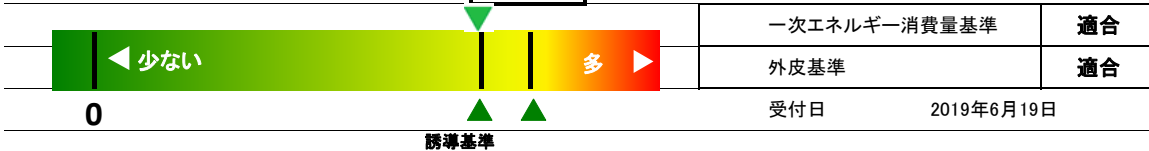
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 **諏訪坂018③ No.3**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **12** %削減



■エネルギーを大切に使う (①建物の工夫 ②設備の性能 ③維持管理と運用)

- ①BEIが0.9以下
- ②ガスコンロ省エネ基準達成率100%以上。
- ③取り扱い説明書+かしこい住まい方ガイドを説明。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **5**

■室内環境対策 (④暑さ・寒さ)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当)

④レベル4を超える水準の断熱等性能を満たす。全てのガラス面に遮熱LOW-Eガラスを採用(日射侵入率0.32)。

■室内環境を快適・健康・安心にする (⑤健康と安全・安心)

- ⑤ホルムアルデヒド対策等級3を満たす。
- ⑤玄関2ロック+窓サッシ補助錠付き。

■その他の対策 (⑥自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 **あり**

⑥主要な居室において、二方向に開口部がある、または一方向開口でも通風・排熱を促進する取組みがなされている。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **5**

■災害に備える (⑦災害に備える ⑧長寿命に対する基本性能 ⑨地域の安全・安心)

- ⑧劣化対策等級3を満たしている。サイディング金物工法を採用。耐用年数は約40年。コロニアル葺き。耐用年数30年。耐火等級3(開口部以外)を満たす。
- 長期優良住宅の定期点検計画、住宅履歴システム(プロパティオン)登録。
- ⑨敷地内通路500mm以上確保。境界は軽量フェンス(添付資料参照)。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

■まちなみ・生態系を豊かにする (⑩まちなみ・景観への配慮 ⑪生物環境の創出)

⑩建物高さ、形状、色彩を統一し、全体調和に配慮。室外機は道路から目隠し。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

CASBEE 横浜 [戸建] | 評価結果 | 31-035



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)
 評価版018③ No.3

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.0

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
QH すまいの環境品質		-	-	3.4
QH1 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	3.3
1 暑さ・寒さ		3.1	0.50	3.1
1.1 基本性能		4.8	0.50	-
1 断熱等性能の確保	健康・安心	5.0	0.80	-
2 日射の調整機能	健康・安心	4.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ		2.0	0.25	-
1 風を取り込み、熱気を逃がす		3.0	0.50	-
2 適切な冷房計画		1.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ		1.0	0.25	-
1 適切な暖房計画		1.0	1.00	-
2 健康と安全・安心		3.5	0.30	3.5
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心	3.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心	3.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災	3.0	0.25	-
3 明るさ		3.0	0.10	3.0
3.1 屋光の利用		3.0	1.00	-
4 静かさ		4.0	0.10	4.0
QH2 長く使い続ける		-	0.30	4.1
1 長寿命に対する基本性能		4.4	0.50	4.4
1.1 躯体	防災	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		4.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災	5.0	0.30	-
1.5 火災に備える		3.0	0.20	-
1 火災に耐える構造		3.0	0.65	-
2 火災の早期感知		3.0	0.35	-
2 維持管理		4.3	0.25	4.3
2.1 維持管理のしやすさ		4.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
3 機能性		3.5	0.25	3.5
3.1 広さと間取り		3.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		4.0	0.50	-
QH3 まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	2.8
1 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	3.0	0.30	3.0
2 生物環境の創出		1.0	0.30	1.0
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり	1.0	0.35	-
3 地域の安全・安心	防災	5.0	0.20	5.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		3.0	0.20	3.0
LRH すまいの環境負荷低減性		-	-	3.5
LRH1 エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	4.2
1 総合的な省エネ		4.2	0.75	4.2
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能	4.4	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能	3.0	0.10	-
2 水の節約		4.5	0.15	4.5
2.1 節水型設備		5.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫		3.5	0.10	3.5
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能	4.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能	3.0	0.50	-
LRH2 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	4.0
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		3.4	0.60	3.4
1.1 構造躯体		3.0	0.30	-
1 木質系住宅		3.0	1.00	-
2 鉄骨系住宅		3.0	-	-
3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		3.0	0.20	-
1.3 外装材		5.0	0.20	-
1.4 内装材		3.0	0.20	-
1.5 外構材		3.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減		5.0	0.30	5.0
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		5.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		5.0	0.33	-
2.3 施工段階		5.0	0.33	-
3 リサイクルの促進		5.0	0.10	5.0
3.1 使用材料の情報提供		5.0	1.00	-
LRH3 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	2.3
1 地球温暖化への配慮		3.5	0.33	3.5
2 地域環境への配慮		1.5	0.33	1.5
2.1 地域インフラの負荷抑制		2.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		1.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮		2.0	0.33	2.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		1.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		3.0	0.50	-